

＜検討の経緯＞

- ①スポーツ行政組織の知事部局への移管から12年が経過
平成19年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正で、スポーツ行政の知事部局移管が可能となったことから平成20年度に知事部局に「生涯学習・スポーツ振興課」を設置以降、教育とは別の視点でのさまざまな取り組みを実施(詳細は参考資料1)
- ②10年後(令和13年)に奈良県において「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催予定(令和2年度内々定)
- ③奈良県のスポーツ振興のマスタープランである「奈良県スポーツ推進計画」の平成25年度の策定から9年、平成29年度の見直しから4年が経過。令和5年度からの次期計画策定に向けた検討が必要

取り組むべき課題(環境変化含む)

＜前回の審議会でのご意見＞

- ◆運動・スポーツに無関心な人へのアプローチ
- ◆健康維持に必要な日常的な外出などの身近な運動推進
- ◆スポーツ習慣化のための幼児向け運動・スポーツの推進
- ◆都市部と農山間部など地域特性を踏まえた取り組みの検討
- ◆リアルとバーチャルの融合によるスポーツイベントの検討

＜その他の課題＞

- ◆子どもの体力低下
- ◆子育て・ビジネス世代の運動実施率低迷
- ◆少子高齢化によるスポーツを「支える」人の減少
- ◆スポーツ施設の老朽化及び機能・規模不足
- ◆競技力強化の仕組み・システムが脆弱
- ◆コロナ禍によるスポーツの取り組み方や環境の変化

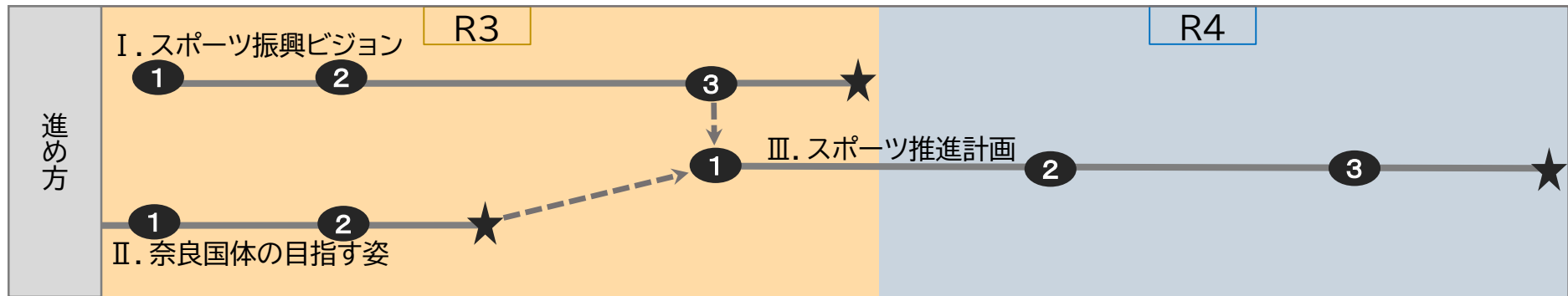
取り組むべき課題を踏まえ、今後の国体開催までの10年間とその後を見据えて、改めて「スポーツの社会的な価値」を考え、新たな取り組みを構築することが必要

- 条例化の検討:スポーツを通じてどのような未来を目指すのか、県のスポーツ施策を体系的に整理
- スポーツ振興ビジョンの策定:県のスポーツ施策の「取り組む柱」と各柱の「目指す姿」を提示
- 上記をふまえ、令和5年度からの次期「奈良県スポーツ推進計画」を策定

10年後とその先を見据え、奈良県がスポーツ振興を通じて目指すべき方針・姿(柱)について

○スポーツ推進審議会の議論テーマ

年度	テーマ	内容
R3	スポーツ振興ビジョン	スポーツを通じてどのような未来を目指すのか、県のスポーツ施策を体系的に行うための中長期的なビジョンとして、「取り組む柱」と各柱の「目指す姿」について議論する。
	奈良国体の目指す姿	令和13年度に奈良県で開催する「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」の開催を契機としたスポーツ振興のあり方及びスポーツ振興の基盤・仕組みづくりについて議論する。
R4	スポーツ推進計画	令和3年度にとりまとめた「スポーツ振興ビジョン」に基づく実施計画として、令和5年度～9年度(5年間)のスポーツ推進計画を策定する。



R3年度

- 1回目 5月28日 (奈良県が取り組むべき方針(柱)・姿について、ご意見を伺う)
- 2回目 8月頃予定 (1回目のご審議を踏まえた方針案と国体の目指す姿を提示し、ご意見を伺う)
- 3回目 2月頃予定 (2回目のご審議を踏まえた方針と、計画策定への指標や内容についてご意見を伺う)

R4年度

- 1回目 7月頃予定 (計画の骨子案を提示しご意見を伺う)
- 2回目 11月頃予定(計画内容について提示しご意見を伺う)

(仮称)奈良県スポーツ振興条例・ビジョンの検討

スポーツ振興の中長期的ビジョン(県がスポーツを通じて目指す柱と姿を示す)

奈良県が目指す
10年後の姿(例)

- ☆県民の運動・スポーツへの関心向上と取組拡大により、健やかで活力のあふれる県になる
- ☆アスリートの活躍やスポーツ環境の向上により、子どもたちの夢と希望があふれる県になる

方針(柱)[例]

- スポーツを通じた健康増進
- スポーツを通じた人づくり
- スポーツ環境の整備と地域活性化

国体を契機としたスポーツ振興等のあり方と目指す姿

取組(柱)[例]

人づくり

組織づくり

環境づくり

※国体を契機としたスポーツ振興の基盤・仕組みづくり

奈良県スポーツ推進計画の策定(R5年度～R9年度)

スポーツ振興の取り組みの方向性と目標(5年毎)

ビジョンで示した県が目指す姿を実現するため、多様な主体が連携・協働し、県民全体でスポーツ振興に取り組む内容及び、取組目標を定める

(※令和3年度中に策定される国の「スポーツ基本計画」の趣旨・方向性や、県の他の計画との整合を図る。)